

Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 ブラウンバックセミナー

Brown Bag Seminar No. 224

2026 3.4 (水) 12:10-12:15 12:50

- 12:10-12:15 ◆発表者紹介
- 12:15-12:40 ◆プレゼン
- 12:40-12:50 ◆質疑応答

オンライン (Zoom) 登録はこちら

https://us02web.zoom.us/join/register/WN_07QE8GXHSKCbipsqCE8YyQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

九州から東方正教を考える：近代の「敗者」とポスト・リベラルの価値観



Key Words

東方正教
ポスト・リベラリズム 犠牲者意識ナショナリズム
「宗教ゼロ」

高橋 沙奈美 准教授
人間環境学研究院 人間科学部門

浜松生まれ、岐阜育ち、京都大学文学部で修士課程まで学んだあと、ロシアについてより深く学ぶため、2006年、北海道大学大学院スラブ・ユーラシア研究センターの博士課程に入学しました。のべ3年間、ロシアの地方都市で、社会主義時代に博物館として展示された宗教文化財について調査し、博士論文に仕上げました。2018年、『ソヴィエト・ロシアの「聖なる」景観』と題して北海道大学出版会より上梓、第8回地域研究コンソーシアム登壇賞を頂きました。2019年に、九州大学人間環境学研究院に就任。2023年には、ウクライナ戦争を正教会の視点から描いた『迷えるウクライナ』(扶桑社新書)を発表し、日本ロシア文学会選考委員特別賞を頂きました。

本報告は、九州における東方正教会の受容過程を起点に、この伝統的キリスト教が現代社会で持つ思想的ポテンシャルについて考えます。近年、学生と共に行った調査により、九州地方の正教信仰は、西南戦争で敗北した鹿児島土族から始まった可能性が見えてきました。この背景には、正教が持つ儒教的思想との親和性や、強固な伝統保守性が指摘されます。今日、エマニュエル・トッドが指摘する「宗教ゼロ」の西洋諸国において、正教はリベラリズムへのオルタナティブとして再評価されつつあります。日本近代化の周縁であった九州の事例から、国民国家や伝統的価値観と結びつく正教の現代的意義を問い直すことを試みます。

Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 ブラウンバックセミナー

Brown Bag Seminar No. 225

2026 3.11 (水) 12:10-12:15 12:50

- 12:10-12:15 ◆発表者紹介
- 12:15-12:40 ◆プレゼン
- 12:40-12:50 ◆質疑応答

オンライン (Zoom) 登録はこちら

https://us02web.zoom.us/join/register/WN_NSGeTakUtkiC6lj2AVB84A

【技術支援】九州大学 Q-AOS

音と聴覚の研究



Key Words

音
知覚 精神物理学
音声 記憶

レメイ ジェラード バスチアン 教授
九州大学 芸術工学研究院 音響設計部門 教授 芸術工学府 芸術工学専攻

ジェラード・レメイは、九州大学大学院芸術工学研究院音響設計部門の教授です。オランダ出身で、ライデン大学にて知覚心理学の修士号と修士号を取得しました。1993年に九州芸術工科大学大学院で聴覚心理学の修士研究を行うため初来日し、2003年に同大学院で博士号を取得しました。その後10年間で、レメイ教授は5つの博士研究員職を歴任し、九州大学、金沢大学、金沢工業大学において卓越研究センター(COE)研究員や日本学術振興会(JSPS)特別研究員などを務めました。この期間を通じて、心理物理学的手法と神経科学的手法(特に脳波(EEG)と機能的近赤外分光法(fNIRS)を用いた聴覚・聴覚知覚の研究に従事しました。2010年に福岡に戻り、九州大学国際教育センター准教授に就任。2014年に音響設計部門に異動しました。2025年には、かつての指導教員の後任として聴覚心理学の教授に就任しました。現在、大橋キャンパスの知覚心理学研究室を主宰し、聴覚および聴覚に関する研究を統括しています。主な研究テーマは、限られた時間枠内における音情報の要約統計(アンサンブル)知覚を含む、音知覚の時間的側面です。

日常生活における音は通常、警告やコミュニケーションの機能を持ち、聴覚システムは私たちと周囲の世界をつなぐ重要な役割を果たしています。聴覚科学における中心的な課題は、耳に入る複雑な音波の混合が、脳内でどのように意味のある「聴覚的対象」へと変換されるかを理解することです。ここでは、聴覚分野における二つの研究を紹介します。第一の研究は、基本的な聴覚特徴の一つである音の高さの要約統計的知覚を調査し、音列から中核的な情報を迅速に抽出し、それを聴覚的ワーキングメモリに保持する仕組みを解明します。第二の研究は、65歳以上の聴取者における音声知覚に関するものです。「モザイク音声」を用いて、高齢者が劣化した音声信号からどの程度意味を抽出できるかを評価します。高齢化社会において、こうした研究は補聴技術の開発を支援し、私たちの生活の質全体を高める可能性があります。

Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 ブラウンバックセミナー

Brown Bag Seminar No. 226

2026 3.18 (水) 12:10-12:15 12:50

- 12:10-12:15 ◆発表者紹介
- 12:15-12:40 ◆プレゼン
- 12:40-12:50 ◆質疑応答

オンライン (Zoom) 登録はこちら

https://us02web.zoom.us/join/register/WN_kRwtUAILTVqy6zdgPdHCTg

【技術支援】九州大学 Q-AOS

贈与とギグ：バーニングマンとテクノロジー経済の逆説



Key Words

バーニングマン 贈与と経済
ギグ経済 シリコンバレー 中国
フェスティバル文化 プラットフォーム資本主義

ローウエン イアン 准教授
九州大学 高等研究院

アラスカ生まれのイアン・ローウェン氏は、人生の大半をアジア太平洋地域で過ごしました。学術研究の道に進む前は、台湾、中国、フィリピンでツアーガイド、ジャーナリスト、ホテル経営者、起業家として活躍しました。中国語(北京語)とインドネシア語に堪能です。九州大学高等研究院に着任する前は、シンガポールの南洋理工科大学で台湾文化言語文学部の准教授、社会学、地理学、都市計画の助教授を務め、米国フルブライト奨学生でもありました。コロラド大学ボルダー校で地理学の博士号を取得しました。著書に『One China, Many Taiwans: The Geopolitics of Cross Strait Tourism』(コーネル大学出版、2023年)、『A Taiwanese Ecoliterature Reader』(ロンビア大学出版、2026年)などがあります。

バーニングマンは、徹底的な自己表現、脱商品化、贈与、そして参加という原則のもとに砂漠に出現する仮設都市であり、グローバルなテクノロジー経済のモデルであると同時に、その推進力としても機能してきた。このイベントとシリコンバレーは互いの成長を促進し合い、1960年代のカウンターカルチャー、サイバネティクスのユートピア主義、そしてグローバルな商品生産という共通の遺産を引き継いでいる。テクノロジー産業の文化的インフラストラクチャーとして、またエリート層の社会的ネットワークの場として、バーニングマンの贈与と経済的精神は、それが超克しようとした格差や資源をめぐる対立を逆説的に加速させ、みずからが対抗しようとしたはずのギグ経済の誕生を助けることになった。イベントのグローバル化にともない、中国のエリート層の関心と参加も高まり、フェスティバル文化を通じて演じられる地政学的・経済的な協調と対立を考察する、思いがけない視座を提供するようになった。本発表は、研究者、アーティスト、そして組織の内部関係者として行ってきた長期的なアクション・リサーチにもとづき、辺境の砂漠で生まれた儚い実験が、いかにして私たちが今日生きるこの矛盾に満ちた世界の生成的な場となったかを迎えるものである。